

少年野球 最新の指導法表彰

県内2チーム 最高評価

最新の練習法や医学的見地に基づいて指導している



トリプルスターズを受賞したレッドスネークコルツ（チーム提供）

少年野球チームを表彰する「ベストコーチングアワード」の最上位「トリプルスターズ」に県内の2チームが選出された。レッドスネークコルツ（横浜市旭区）と南生田ウイングス（川崎市多摩区）の2チームで、受賞を励みに一層の指導改善に取り組んでいる。

アワードは、子供のスポーツ環境の適切な整備を目指す「一般社団法人スポーツメディカルコンプライアンス協会」が主催した。最も評価の高い「トリプルスターズ」には全国の13チームを選んだ。

レッドスネークコルツは、昨年コーチから就任した河原哲大監督が「エンジヨイ・ベースボール」を掲げ、投手の「球数制限」を取り入れた。過去にけが人を出した苦い経験をもとに、送球の多い捕手と投手を交代することもやめた。

河原監督は「けがの早期発見のため、選手の保護者にも専門整骨院でのチェックを促している」と話す。

主力野手が昨秋の検査で離断性骨軟骨炎と診断された。本人は痛みを感じていなかったが、送球を禁止して治療し、半年後に完治した。その間、この選手は利き手でない左投げにも挑戦し、その経過をSNS（ツイッター・ネットワーキング・サービス）で情報発信した。河原監督は「他チームでは肘が痛いのに投げている子もいるそうです。投手でなくても成長の過程で発症すると聞いたので、参考になれば」と説明する。

南生田ウイングスは学齢に合わせて体力や技術を段階的に向上させる指導法を導入し、走攻守の学年ごとの目標も設定している。山内渉総監督は「子供たちには、『野球の楽しさ』『目標達成の喜び』を感じてほしい。そのために、指導システムも改善を続けたい」と話した。

トリプルスターズを受賞したレッドスネークコルツ（横浜市旭区）と南生田ウイングス（川崎市多摩区）の2チームで、受賞を励みに一層の指導改善に取り組んでいる。

主力野手が昨秋の検査で離断性骨軟骨炎と診断された。本人は痛みを感じていなかったが、送球を禁止して治療し、半年後に完治した。その間、この選手は利き手でない左投げにも挑戦し、その経過をSNS（ツイッター・ネットワーキング・サービス）で情報発信した。河原監督は「他チームでは肘が痛いのに投げている子もいるそうです。投手でなくても成長の過程で発症すると聞いたので、参考になれば」と説明する。